

弥生時代から人が暮らす文化と歴史のまち

岩津学区

IWAZU



100年後まで伝えたい

誇るべき名「岩津」



NO.1 岩津小のボール体操

ぼくたちの学校には、50年以上も受け継がれる「ボール体操」があります。全校児童1人ひとりがマイボールを持ち、音楽に合わせてボールを投げたり、ついたりします。ぼくは全員が一斉にボールを空に向かって投げ上げるところが大好きです。

100年後の岩津小も「ボール体操」をやってほしいと思います。(岩津小6年 男子児童)



NO.3 岡崎北部を代表する文教地区

岡崎北部の中心地に位置する岩津学区は、古くからの商店街や公共施設があり、岩津小は140有余年の歴史を有しています。ここ岩津学区は、昔から岡崎北部の教育・文化そして経済の中心でありました。

学区を上空から見ると、東には三河山地の端が迫り、西に矢作川がつくる平野が広がっていて、まさにその境に保育園、小学校、中学校、高校が一つ所に集まっていることがわかります。特筆すべきは岩津保育園、岩津小学校、岩津中学校、岩津高校と、どれも「岩津」という名を冠していること。これは市内の他のどの地区にもない大きな特徴です。

学区を上空から見ると、東には三河山地の端が迫り、西に矢作川がつくる平野が広がっていて、まさにその境に保育園、小学校、中学校、高校が一つ所に集まっていることがわかります。特筆すべきは岩津保育園、岩津小学校、岩津中学校、岩津高校と、どれも「岩津」という名を冠していること。これは市内の他のどの地区にもない大きな特徴です。

岩津学区は、名実ともに岡崎北部の文教地区。子どもたちの願いにも込められているように、豊かな自然を守り、それぞれの伝統を大切に、ぜひ100年後も「岩津」の名と共に、岡崎北部の教育・文化・経済の中心地として繁栄し続けていってほしいと思います。(岩津小 教員)



NO.2 岩津小のがんばり山

私たちの岩津小には「がんばり山」があります。ジャンボすべり台や緑いっぱいの森があり、鳥のきれいな鳴き声が聞こえ、風で木がザワザワとゆれている、そんな「がんばり山」が大好きです。



50年後も100年後も、岩津小のみんながワクワクするような自然豊かな「がんばり山」であり続けてほしいです。(岩津小6年 女子児童)



編集後記

岩津町が岡崎市と合併して60有余年、編集委員の大多数が、編入前からこの地に居住していたことなにかしら縁を感じます。改めて学区のことを調べる中で、今まで当たり前慣れ親しんだ名称にも貴重な歴史があることを再認識した次第です。今回の「岩津学区まちものがたり」が、地元の歴史に興味を持つきっかけになればと念じております。作成にあたり多数の皆さんに助けいただきました。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

〔作成委員会〕 時々輪忠正/内田利勝/井関博安/谷口正弘/岩瀬正生/犬塚勝一/井上一/柴田進/市川幹夫/藤田一夫/中根勝利/杉浦強/宇野悦次

〔協力者〕 平成27年度岩津小6年 古澤文野/平成27年度岩津小6年 古沢萌乃/岩津小教員 神谷築信/真福寺町 加藤八郎
〔参考資料〕 岩津町誌/新編岩津町誌/岩津の史跡と文化財
〔表紙写真〕 三河山地(北東)、矢作川(西)、青木川(南)に囲まれた岩津学区を空から見る(2016年8月撮影)



1 岩津小学校



2 県立岩津高等学校



3 岩津保育園



4 レオナ第二幼稚園



5 県立岡崎聾学校



6 岩津中学校

文化と歴史のまち

弥生時代から人が暮らす

一八七三年 ■ 明治6 妙心寺(後に円福寺と改称)(↓地図F)境内に進徳学校(現在の岩津小学校)創立開校

一八七六年 ■ 明治9 岩津郵便局・巡查屯所(現在の岩津派出所)創設

一八七七年 ■ 明治10 足助街道(旧国道248号)の改修工事が始まる

一九一五年 ■ 大正4 本多平八郎忠勝生誕の碑建立(↓地図H)

一九一六年 ■ 大正5 岩津町役場(現在の岩津学区市民ホーム)新築

一九一七年 ■ 大正6 岩津城跡の碑(↓地図O)建立

一九一八年 ■ 大正7 学区内に電話線を敷設

一九二四年 ■ 大正13 天神橋架橋(現在の橋の上流側)

一九二七年 ■ 昭和2 岩津尋常高等小学校(現在の岩津小学校)新築移転…1

一九二九年 ■ 昭和4 三河鉄道岡崎線(後の名鉄挙母線)が開通

一九三五年 ■ 昭和10 岩津町立岩津農商学校(現在の県立岩津高等学校)開校…2

一九四七年 ■ 昭和22 岩津中学校開校(6・3・3・4制、共学)

一九五二年 ■ 昭和27 岩津保育園開園…3

一九五五年 ■ 昭和30 額田郡岩津町が岡崎市に合併、町役場が岩津支所になる

一九六〇年 ■ 昭和35 伊勢湾台風の被害世帯が市営住宅天神荘に入居開始

一九六二年 ■ 昭和37 岩津学区内に東名高速道路(岡崎―小牧間)開通

一九六四年 ■ 昭和39 光丘幼稚園(現在のレオナ第二幼稚園)開園(昭和61年に移転)…4

一九六八年 ■ 昭和43 岩津高等学校農場跡地に県立岡崎聾学校が移転…5

一九六八年 ■ 昭和43 岩津学区内で国道248号が開通

一九七一年 ■ 昭和46 岩津商工発展会発足

一九七二年 ■ 昭和47 岩津中学校新築移転…6

一九七七年 ■ 昭和52 岩津市民センター開設

一九七八年 ■ 昭和53 新天神橋架橋

一九八五年 ■ 昭和60 町役場跡地に岩津学区市民ホーム(↓特集)が開設

一九八六年 ■ 昭和61 レオナ第二幼稚園新築移転

一九九〇年 ■ 平成2 岩津学区こどもの家開設

一九九四年 ■ 平成6 市営住宅天神荘1〜4棟落成

一九九六年 ■ 平成8 市営岩津住宅(↓特集)の建て替え入居が始まる

一九九七年 ■ 平成9 北部地域福祉センター開設

二〇〇二年 ■ 平成14 学区・小学校共催のふれあい大運動会開催

二〇〇五年 ■ 平成17 八ツ木町におかざき自然体験の森開設

二〇一二年 ■ 平成24 北部地域交流センター(なごみん)開館

二〇一二年 ■ 平成24 西蔵前町新屋敷に団地造成

岩津学区の特色

岩津学区は岡崎市の北部に位置し、八ツ木、東阿知和、西阿知和、真福寺、東蔵前、西蔵前、岩津の7町(9町内会)からなっており、川あり、山あり、平地ありといった起伏に富んだ地形です。その地形は農耕に適し、弥生時代の大昔から人が住みつき、以来2千有余年の歴史の年輪を経て今日に至っています。

そのため、先人が遺していた数多くの文化財の一部が保存または埋蔵されています。古墳だけを取り上げても、天神山古墳群をはじめ、車塚古墳群、東山古墳群、岩津古墳群、中ノ坂古墳群、神田古墳群、阿知波古墳群等々、住居跡も於御所遺跡、生平遺跡、前田遺跡等々で50有余もあり、今後も開発が行われる度に、新たな古墳あるいは住居跡が発見される可能性があります。

その他、松平氏や徳川氏にゆかりのある城跡や神社仏閣、碑石、絵画彫刻、古文書等々、岩津の歴史を知る上で貴重な資料が数多く残されています。

一方、かつてはのどかであった田園風景や、緑豊かな丘陵や山々が宅地造成、土地区画整理事業、道路の新設・拡幅工事などの地域開発により、比較的早い速度で変わってきました。田畑は減少しましたが、住宅、人口、児童数は増加。商業施設の出店も相次ぎ、賑わいを見せています。

COLUMN 岩津という地名の由来

「岩」 学区内の丘陵性山地の地質は花崗岩質で、東阿知和、西阿知和、真福寺の各地で石材の切り出しが行われてきました。昔は大きな石や岩が露出していたと想像できることから「岩」が連想されます。

「津」

学区の西は矢作川、南は青木川で水利や水運を利用した港、船着き場があったと思われます。そこから「津」が連想されます。



岩津学区

まちものがたりマップ

地勢の利もあり、古墳を始め、歴史ある神社仏閣が点在する岩津学区。とくに徳川家康の祖先にあたる松平氏に関するものが多く、まさしくこの地を拠点に松平氏の活躍が始まり、260年続いた江戸幕府につながったといえます。



A 岩津天満宮 (岩津町)
江戸時代中期の宝暦9年(1759)に信光明寺の住職が創建。明治政府の神仏分離により一時荒廃するが、明治時代に土木技術者として活躍した碧南市の服部長七が再興に努め、天満宮中興の祖といわれている



B 真福寺 (真福寺町)
三河地区最古といわれる寺。飛鳥時代の推古天皇2年(594)に物部守屋(ものべもりや)の子、真福(まさち)が父のために建立したといわれている。左の写真は真福寺の仁王門で、阿吽の木造仁王像が山門を守護している



C 岩津第1号古墳 (岩津町)
古墳時代後期に築造された6基からなる岩津古墳群のうち、現存する唯一の古墳。古墳は県指定史跡、発掘された装飾須恵器など約100点の遺物は県指定文化財となっている



D 岩津城跡 (岩津町)
永享元年(1429)に松平信光の居城となり、以後はこの城を中心として、松平氏発展の基礎が固められた。元龜2年(1571)、武田軍の三河侵攻に際して歴史から姿を消したといわれる。左の写真は山の上に建っている石碑



E 舘播神社 (東阿知和町)
創建の年代は不詳だが、平安時代の歴史書「文徳実録」には仁寿元年(851)に位階(当時の官位)の従五位下(じゅごいげ)を授かるとあることから、格式ある神社であることがわかる



H 本多平八郎忠勝の生誕地 (西蔵前町)
本多平八郎忠勝は「徳川四天王」といわれた猛将で、武勇をもって天下取りに貢献した功績が認められ、後に初代の桑名藩主となった



F 信光明寺 (岩津町)
室町時代中期の宝徳3年(1451)、松平信光により建立。境内には松平3代(初代親氏、2代泰親、3代信光)の墓所がある。上の写真は文明10年(1478)に建立され、現在は国の重要文化財に指定されている観音堂



G 天満宮 (東蔵前町)
室町時代後期の天文3年(1534)創建。当時の社は東西に鎮座していたが、江戸時代後期より南面に遷座した。市街地にあるにもかかわらず樹木が多く、境内が広いところから市の「ふるさとの森」に選定されている



G 天満宮 (東蔵前町)
寛正2年(1461)に松平信光が建立した寺院(当時の名称は妙心寺)。本尊「厄除如来」は法然上人作、山門(総門)の「鯉の滝登り」は左甚五郎(ひだりじんごろう)作といわれる。明治6年には境内に学校(現在の岩津小学校)が開設された



未来に残したい 岩津学区の宝

昭和初期には自然の恵みや祖先に感謝する伝統的な行事が各地にありましたが、時代とともに廃れ、今日ではわずかしが残っています。また町の景観も産業や商売の変化とともに変遷し、昔日の面影を残すものは少ないですが、町の宝として後世に残すことが出来れば幸いです。



1 舘播神社の雅楽。毎年11月23日の新嘗祭で演奏される 2 祈年祭、大祭、新嘗祭では巫女の舞も奉納されている 3 整然と厳肅にお祭りに向かう行列



雅楽で使われる
鉦鼓

TREASURE OF IWAZU

1

大正初期より伝わる 東阿知和の雅楽

東阿知和の雅楽の始まりは大正時代の初期。東阿知和町内の有志が現在の仁木町にいた楽人を訪ね、教えを受けたことが今日に引き継がれています。

現在の楽人は、東阿知和町内の氏子の有志およそ10名。大笛、大太鼓、鉦鼓が各1名、笙(竹でつくられた縦笛の一種)2名、篳篥(管楽器の一種)5〜6名という構成になっています。

雅楽の奉納が行われるのは、舘播神社の3回の祭礼(2月の祈年祭、10月の本祭、11月の新嘗祭)と、町内の松林寺で行われる年に一度の報恩講。それぞれ当日には見物客で賑わいます。

ただ、唯一の問題は楽人の高齢化。新たな継承者を発掘していくことが今後の課題といえるでしょう。



2

五穀豊穡を祝う 八所神社の押し神輿

真福寺町の八所神社の押し神輿は五穀豊穡を祈願するために始められました。もともと盛大に行われていたのは延宝年代(1673〜1681)だといわれています。しかし、それから数百年を経た昭和16年(1941)に中断。戦争の影響による祭事奉仕者の人手不足などが原因でした。

その後、再開の機運が高まったのは昭和62年(1987)。八所神社にある赤堂の塗装修復工事が完成した記念として押し神輿が実施された際、多くの町民より寄せられた「由緒ある神輿が残っているのだから、昔のように神様を担いでみたい」という声があつきました。そして平成14年頃より正式に復活。毎年10月の大祭に合わせて実施されています。

TREASURE OF IWAZU

わっしょい!
わっしょい!



昔のように神様を担いでみたい」という声があつきました。そして平成14年頃より正式に復活。毎年10月の大祭に合わせて実施されています。

祭典後の大切な儀式



神輿は祭典が終わると拝殿に安置されます。そのとき行われるのが、役方同士による押し合い。神庭に引き据えた神輿を真ん中に置き、2組に分かれて互いに背を向け合い、3回の押し合い勝負が決してから祭礼が終わりです。



1 子どもたちも小さな神輿を担いで祭礼を盛り上げる 2 現在の神輿は2代目。延宝8年(1680)につくられたものだとされている

TREASURE OF IWAZU

3

今も残る昔の風景と 近代的な高層住宅

二 岩津学区市民ホーム 二 岡崎市と合併される前の旧岩津町役場のイメージを模した外観が特徴。当時の面影を残しており、昔の思い出がよみがえるような懐かしい建物です。



岩津町役場跡地にあり、現在は各種団体の活動拠点となっている

二 旧街道 二

県道39号岡崎足助線が開通する前のメインストリートでした。岩津劇場での興行や岩津天神のお祭りで露店が出ていた頃には、多数の人が歩いた道です。



今は少なくなった昔の門構えを残す町並み

二 高層の市営岩津住宅 二

岩津学区北部にあった平屋建て市営住宅の老朽化と利用希望者の増加に伴い、市営住宅としては岡崎市初のエレベーター付き高層住宅に建て替えられました。



岩津学区北部にある威風堂々とした高層住宅。市営住宅天神荘とも隣接している